

## 平成28年度 第6回小平市公民館運営審議会 会議要録

- 1 開催日時 平成29年1月24日(火) 10:00~12:00
- 2 開催場所 小平市中央公民館 会議室
- 3 出席者 小平市公民館運営審議会委員 10名  
事務局 中央公民館長、館長補佐兼事業担当係長、管理担当係長、  
分館担当係長 9名
- 4 傍聴者 なし
- 5 配布資料 (1) 平成28年度小平市公民館定期講座実施状況表・・・・・・・・・・ 資料1  
(2) 東京都公民館連絡協議会 職員部会 報告・・・・・・・・・・ 資料2  
(3) 中央公民館事業企画委員会の検討資料・・・・・・・・・・ 資料4  
(4) 平成29年度小平市公民館事業計画(案)・・・・・・・・・・ 資料5  
(5) 平成28年度第5回小平市公民館運営審議会会議要録・・・・・・・・ 資料6
- 6 次第 (1) 館長報告  
(2) 公民館定期講座実施状況について  
(3) 公民館事業企画委員会等について  
①鈴木、小川公民館の開催状況  
②分館他館の設置に向けた進捗状況  
③中央公民館の設置に向けた検討内容  
(4) 東京都公民館連絡協議会 職員部会・委員部会報告について  
(5) 平成29年度 小平市公民館事業計画(案)について  
(6) その他

### 会議の概要

#### 1 館長報告

##### ① 中央公民館の耐震補強工事の概要説明会について

1月14日午後、17日夜間、18日午前で、説明会を行い、10名の参加があった。閉鎖が予定されている陶芸窯については、陶芸サークルの連絡会が3月にあり、その中で再度説明する。

② 今年度予定されていた工事の進捗状況について

中央公民館の空調機の水漏れ防止工事、冷凍機のオーバーホールは、水漏れ防止工事は11月中に、オーバーホールは1月の初めに工事が終了し、既に検査も予定通り終了している。

2 公民館定期講座実施状況について

事務局より資料1について説明した。

(質疑応答)

委員 仲町公民館の「子育てパパ応援講座」について、今回初めて実施したがどんな雰囲気だったか。

分館長 保育付き講座で、5回目だけは夫婦で参加してもらい、いろいろな人とのグループワークをなごやかな雰囲気で行っていた。第2回目や第4回目の講座では、バルーンアートの体験や調理実習をする中で父親同士の横の繋がりができた。参加者からは、「料理をもっとやりたい」との声が多く好評だった。子育てに熱心な方が多く、「また、父親を対象とした講座をやってほしい。」との要望があった。

会長 実施日について、水曜日と日曜日に分かれているが、水曜日はお父さんが参加するのにはどうか。

分館長 水曜日については、夜間の時間帯で行った。講師の都合に合わせて設定したが、受講率も高く、それほど影響はなかったと思う。

委員 「子育てパパ応援講座」は男女平等推進の視点からも意義のあることだと思う。これは今回限りか継続されるのか、仲町公民館だけか他館でも実施するのか。

分館長 受講した方は、なかまちテラス周辺だけでなく、市内全域から参加していた。サークル化には至らなかったが好評だったので、来年度以降の講座として検討していきたい。他館でも参考になると思う。

委員 鈴木公民館の「地域に出張カフェするサークルづくり」の「お試しカフェ」では、どの世代が多かったのか。また、「定期的に開催していく」とは、今後どのように開催していくのか。

分館長 お試しカフェの時に来られた方は、年齢の高い方が多かった。今後は、マンスリーコン  
(鈴木) サートなど大勢の方が集まる時にタイアップして開催していきたい。

委員 カフェということで、コーヒー代などの費用は利用者が負担するのか。

分館長 スタッフが準備をして、利用者が実費相当の1杯100円を支払っている。  
(鈴木)

委員 「国際理解講座」は、花小金井小学校との共催ということだが、どういう経緯で共催するに  
いたったのか。小学校と連携するのは初めてだが、画期的でいい取組だと思う。

事務局 花小金井小学校の学校支援コーディネーターの方から話があった。小学校では、オリ  
ンピック・パラリンピック推進事業「おともだちプロジェクト」の一環として割り当て  
られた外国を知る授業がある。花小金井小学校は「ギリシア共和国」であったことから、  
公民館の国際理解講座と連携することになった。花小金井小学校には、会場の提供と児  
童の参加を依頼している。市民と児童が講座を共有できる形で進めていく。

委員 主催はどのような形になるのか。中央公民館が主体なのか。

事務局 中央公民館主催の国際理解講座であるが、児童は授業の一環として参加し、学校と  
協力・連携して開催している。

委員 今後、他の小学校や中学校と連携していく考えはあるのか。今回は学校からのきっかけ  
があったから実施したのか。

事務局 今回は、花小金井小学校と協力・連携して開催するが、来年度以降については、公民  
館から学校に提案し、他の学校とも協力して、国際理解講座を実施することも考えられ  
る。

委員 是非よろしくお願いします。

委員 この予算はどこから捻出するのか。学校は学校の予算があるのか。

事務局 講師謝礼やチラシ等の費用は公民館予算から支出している。それ以外で学校の負担は  
ない。

### 3 公民館事業企画委員会等について

#### (1) 鈴木・小川公民館の開催状況

鈴木公民館：月1回のペースで定例会を開催しているが、11月は休みで12月・1月と開催した。内容は、平成29年度の企画について、更に情報を確認しながら取り組んでいる。また、先週の委員会では、委員が平成27・28年度の任期を終えるにあたり、振り返りの時間を設定して、委員間で意見交換を行った。

小川公民館：事業企画委員会は昨年4月から10月まで毎月、計7回開催した。平成29年度の当初から始まる講座については、講座担当者と打合せをしている状況である。

#### (2) 分館他館の設置に向けた進捗状況

各分館より事業企画会の委員の選定について進捗状況を説明した。

#### (3) 中央公民館の設置に向けた検討内容

事務局より資料4について説明した。

#### (質疑応答)

会 長 鈴木公民館で事業企画委員会を設置してからの利用者数の変化についてどうか。

分館長 4月から12月までの利用者数を平成27年度と比較したところ、2,900名の増  
(鈴木) があった。事業企画委員会で企画した講座やワークショップは日曜日開催が増えている。平日に来られない方が日曜日に足を運んでくれたり、事業の内容が単発なもので人を呼べる内容だったことから、利用者の増になったと思う。

委 員 日曜日に館長は出勤しているのか。

分館長 時間外勤務で対応しているが、あくまでも準備から後片付けまでの必要最小限の時間と  
(鈴木) している。一つの課題ではある。

委 員 日曜日に利用者が増えて公民館が活気づくようであれば、今の勤務シフトは見直すべきではないか。公民館を利用してほしいというが、職員の勤務体制のような基本姿勢がそのままというのはどうなのか。

館 長 日曜日の出勤が多くなってきているというのは、課題として認識している。また、職員

によって対応が違くと継続性に影響が出てきてしまうので、日曜日の開催についても検討課題と考えている。勤務体制については、全庁的に関わることで、公民館だけでは判断できない部分があるため、大きな検討課題と思っている。

委員 東京都公民館連絡協議会の委員部会では、小平市の公民館事業企画委員会の動きについて、大変興味を持っている。

委員 事業企画委員会は、講座のための委員会として考えていいのか。「なかまちテラス LiNKS」のような公民館全体の運営を目指していくものなのか。

事務局 主に企画する中身については講座になるが、講座以外にも講演会や音楽会などのイベント等の企画についても行うことを想定している。

委員 まつりは別の実行委員会の企画で行うのか。

事務局 現在、公民館まつりはまつり実行委員会等と共催して実施しているが、今後は、まつり実行委員会と事業企画委員会との話し合いにより、まつりを事業企画委員会が企画する可能性もある。

委員 今まで分館で「講座のための意見交換会」を開催してきたが、事業企画委員会ができれば、講座のための意見交換会はなくなるのか。

事務局 事業の企画を進めるうえで、市民からの意見を聞く機会を設けることや意見を調整することも必要であると考えている。事業企画委員会の中で意見交換会を開催し、そこから出た意見を事業企画委員が参考にして企画することが望ましいと考えている。

委員 中央公民館の検討内容の部分は、まだ検討中ということか。

事務局 その通り。

委員 検討内容の（２）の中央公民館で必須とされる講座について理由はどういうことか。

事務局 社会教育法では家庭教育については実施するように規定されているため、中央公民館において必ず実施する講座は、家庭教育講座となるが、人権についても必要と考えている。公民館でやらなければならない講座については、職員が企画し、引き続き行っていく。それ以外の講座については事業企画委員会の中で自由に企画してもらうことを予定して

いる。

- 委員 前回は表現の仕方でも話しがあったが、検討内容の（１）「市内全域および隣接小学校区とし」とあるが、「隣接小学校」を除いて「市内全域」としたほうがいい。
- 館長 中央公民館は、全域を網羅する他に公民館まつりを実施する際には、近隣の学校とは密に協力・連携を図っている。よって、全市を包括する視点だけでなく、近隣地域の視点を踏まえ、「隣接小学校区を中心とした市内全域」はどうかと考えている。
- 委員 小平第十五小学校は津田公民館の地区にとはどうか。
- 館長 津田公民館に小平第十五小学校を加えるという意味で、中央公民館から外すということではない。
- 委員 津田公民館の地区の中に小平第十五小学校も入っているということか。
- 館長 中央公民館から外して津田公民館に地区を変えるということではなく、中央公民館の地区にはそのまま入れつつ津田公民館も学区として入っている子どもたちもいるので、追加して加える。敢えて１校だけでなく、緩やかに柔軟に考えていきたい。
- 委員 表現の仕方として、誰でもわかる表現の仕方にしてもらいたい。
- 委員 「隣接する小学校区」を入れることがおかしい。「市内全域の小学校」とか「中学校」を対象にしているのであれば、今回の中央公民館の企画したものにとこの学校が入っていても収まると思う。敢えて入れることで他の学校は近隣ではないと思われるのではないか。
- 委員 「全域」にしておけば、その学校の都合で参加できる。
- 委員 分館が担当の学校を持っているので、中央公民館だけは隣接とか関係なく全部を対象としているとした方がいいのではないかと。
- 館長 中央公民館は全域だが、その中でも地域性を盛り込んでいきたいということを考えている。単なる全域ではなく、近隣の地域性を踏まえて連携を密に図っていく。それを「全域」だけにしてしまうと地域との関係性が見えないため、敢えて加えてはどうかと考えている。

- 委員 津田公民館の担当地区に小平第十五小学校を加えることがどうなのか。他の分館は、担当小学校を限定しているのか。
- 館長 限定ではなく、緩やかな「地区割り」で、主に中心的に調整をしたり、まつりの声掛けをする地区である。
- 委員 それならば、「津田公民館の担当地区に小平第十五小学校を加える」を敢えて言わなくてもいいのではないか。
- 事務局 入れた方がわかりやすいと思うが、「隣接小学校」については再度検討し、次回の公民館運営審議会の時に報告したい。
- 会長 また、表現について検討するということか。
- 事務局 「対象は市内全域とする」として、但し書きで「中央公民館については隣接した小学校に配慮した事業を行う」でどうか。
- 委員 大体近くの小学校で分けているのであれば、文言にそんなにこだわる必要はないと思う。厳密に決めるのではなく、もう少しあいまいでいい。
- 委員 小平第十五小学校の子ども達は小平第四中学校に進学するので、津田公民館の方がいいのではないか。
- 委員 表現についてはこのままにし、津田公民館に加える、あるいは但し書きのようなものは、書かない方がいいのではないか。
- 委員 地域で学校を支えるという社会の動きがある。公民館はこの小学校と意見交換するという意識が必要だと思う。
- 館長 あり方の報告書では、中央は小平第十五小学校と連携していくとしていたが、答申の中では、全域も見てほしいとのことから、このように検討している。
- 委員 前期の委員の立場からすると、中央公民館の役割として、隣接の小学校とだけ連携するのではなく、全体を見てほしいという意味である。

委員 中央公民館は全体の公民館であって、小学校との繋がりには小・中学校の作品展などの役割としてほしい。

委員 小平第十五小学校はどここの公民館にも入っていないのか。

館長 中央公民館の担当地区に入っている。

委員 小平第十五小学校を津田に移したことで全域をみることになるのではないかと。「隣接小学校区とする」で切って、後はいらぬのではないかと。

会長 文言については、各委員いろいろご意見があるが、中央公民館は市全域を見つつ、近隣の小学校との連携も意識していくということかどうか。

4 東京都公民館連絡協議会職員部会・委員部会報告について

事務局より資料2について説明した。

委員より21日に開催された東京都公民館研究大会について無事終了した旨の報告があった。

5 平成29年度 小平市公民館事業計画（案）について

事務局より資料5について説明した。

（質疑応答）

委員 「講座のための意見交換会」は従来、どのような形だったのか。

事務局 年1回、中央公民館・各分館において、市民・利用者から意見を聞く場として開催している。

委員 事業企画委員会と中身がダブルことはないのか。

事務局 「意見交換会」は、講座について意見を聞く場で、「事業企画委員会」は、講座を具体的に企画をする場であり、目的や役割が異なり、ダブルことはない。

会長 事業企画委員会には、各分館の友の会や連絡会からの代表者が出てきている。友の会や連絡会で出た意見を集約し、事業企画委員会に持っていくことで講座の企画に意見が反映されている。



事務局 会長が言われたとおりである。

委員 全体的な事業の中で、様々な障がいのある方がどのくらい事業に参加しているのか。今後、一人でも多く障がいのある方が公民館に足を運ぶための工夫は。

事務局 知的障がいの方を対象に、けやき青年教室を実施している。様々な障がいのある方が参加する事業として、「みんなの音楽祭」というイベントがある。第1回目は公民館主催だったが、2回目以降は実行委員会に委ねた。最初のきっかけづくりを行ったが、今後とも支援していく。

会長 2年目以降、みんなの音楽祭は開催形式が変わり、いろいろな支援団体がコラボレーションして実施したのか。

事務局 2年目からは実行委員会主催で行っている。中央公民館が全く手放したわけでない。けやき青年教室も参加団体となっている。

委員 障がいのある人が参加できるものがない。障がいを含めた視点を事業計画に盛り込めるように検討してほしい。

館長 小平市は福祉施設が多いこともあり、福祉的な視点も必要なので、具体的に来年度の事業計画に障がい者支援に係る文言が盛り込めるか検討する。

委員 金曜市民劇場は来年度からまた開催するのか、家庭教育講座には保育が付いているが、市民講座に保育を付けられるのか。家庭教育講座に参加した市民から、市民講座にも保育が付いていれば参加したいとの声がある。

事務局 都立多摩図書館からの貸出しができれば開催できる。保育については、保育者の配置などの課題もあるが、できるだけ多くの方に保育が利用できるよう努力していく。

委員 事業計画（案）の中の推進事項、なかまちテラスを活かした事業での、地域経済への波及とは何を意識してか。特に地域経済を挙げたのは特別な理由があるのか。

事務局 なかまちテラスの目指す効果は、周辺地域資源の活性化、地域経済への波及とうたっている点から、なかまちテラスを活かした事業についてはこの文言を入れた。

館長 なかまちテラスは、地域活性化を目指す拠点としての施設の役割がある。地域活性化

の中には、公民館・図書館の利用者・利用団体だけでなく、多様な人を巻き込んで一緒に地域のシンボルとして盛り上げていく考え方がある。よって、産業振興の観点から地域経済への波及や地域活性化を図る考え方から、LiNKSのメンバーに商店会の方も入り、なかまちテラスを地域資源として活用した事業に取り組んでいる。

## 6 その他

事務局 鈴木公民館・小川公民館の講座については、7つに分類した講座を行うことにした。一定の分類や枠があることで事業企画委員会が企画しやすいとの検証結果があったこと、また、講座のPRの際に目的が分かりやすいことから分類した。

小平市公民館九館会まつりについては、次のとおり開催する。

舞台発表（3月4日～5日）：10時～16時

まつり音楽会（3月4日）：「沖縄民謡・沖縄文化を楽しもう」

展示（3月1日～5日）

学習成果発表展も同時開催する。（3月1日～5日）

次回は、平成29年3月21日（火）午後2時より、中央公民館会議室にて開催する。